【資料】

# 入学前指導・教育の方法

## ――島根大学の事例から――

和久田千帆，美濃地裕子，為石勝美，福間栄子（島根大学）

島根大学が実施している「入学前セミナー」は，大学入試センター試験を課さないAO・推薦入試合格者を対象とする1泊2日の宿泊形式のセミナーで，入学予定者の大学入学までのモチベーションを高め，入学後の大学生活の円滑なスタートをサポートすることを目的として実施している。本稿では，この「入学前セミナー」を実施することにより，入学予定者は入学後の生活面の不安が軽くなったと感じ，大学生活へのモチベーションを高めていることと，「入学前セミナー」終了後から入学までの期間の入学予定者のwebシステムの活用状況から見えてくる今後の課題について報告する。

### 1 はじめに

島根大学が行っている入学前指導・教育は，平成19年度までは，主として学部・学科の教育に適応するための専門分野への導入と高校の教科学習の定着を図るものであり，学部主導の下で実施されてきた。平成20年度からは入試センター（当時）所管事業とし，センター試験を課さない特別入試合格者全員を対象とする，1泊2日のセミナーを含むものとなった。また，英語のeラーニングによる学習については，平成23年度から，業者と外国語教育センターが共同実施している。これと同じ時期に，入学予定者の自己理解を深化させ，他者との人間関係を円滑に構築する力を育てる学習システムの構築に向けて，業者との共同開発に着手したことを，本協議会において報告している（田中，2012:1-6）。

本学の入試区分毎の募集人員の割合は，一般入試が約75%，AO・推薦入試が約25%となっている。一方，平成26年度の入学者選抜実施状況の概要をみると，「国立大学の平均では，一般入試が約84.5%，AO・推薦入試が約14.8%」である。

また，全国的にみると，「AO・推薦入学者の高校3年生当時の4月，9月における1日当たりの学習時間が1時間未満の生徒の比率は，それぞれ56.4%，45.0%となっており，約半数の生徒が1時間未満しか勉強していない。」，また「AO・推薦入学者で高校3年生11月までに合格が決定した学生の高校3年生12月の1日当たりの学習時間は，受験に対してあきらめずに努力した高校生は1.7時間，あきらめずに努力したとはいえない高校生は0.9時間，受験対策をしなかった高校生は0.4時間となっている」（どちらも，ベネッセ教育研究開発センター「大学生が振り返る大学受験調査」，2012）。

したがって，AO・推薦入試により入学してくる学生の高校生当時の学習時間が少ないことと，本学ではAO・推薦入試で入学してくる学生の割合が全国平均よりも高いことの両面から，本学にとって，入学前指導・教育が担う役割は重要である。

上述の状況を踏まえて，平成23年度以降，本学の入学前指導・教育は，センター試験を課さないAO・推薦入試合格者全員を対象にして，以下の4構成で実施している。

1 学部・学科が指定する学習
2 入学前セミナー
3 英語学習eラーニング
4 行動傾向検査の実施と活用

本稿では本学の入学前指導・教育の一環である「入学前セミナー」について主として報告する。

### 2 入学前セミナー

#### 2.1 目的と特徴

入学前セミナーは，高校の2学期終了時期頃に設定する1泊2日で行う宿泊研修であり，日中の研修は本学で行い，夕方から翌朝にかけての宿泊研修は，県内の宿泊施設で行う。

入学前セミナーを実施する目的は，一般入試によって入学してくる学生より早い時期に本学への合格

を決めたことが大学入学後の強みとなるように，

1) 他の入学者よりも早く，① 大学を知り，② 様々な人と関わることにより，③ 大学に対する期待や安心感を得て，④ 大学入学までの勉強面・生活面のモチベーションを上げる。

2)⑤ 高めたモチベーションを保ち，⑥ 目標に向かって努力し，一歩リードした学生生活のスタートがきれるようにする，

ことであり，このことについて大学が積極的に取り組んできた。なお，上記の「一歩リードした」とは，勉強面では，入学前セミナーに参加しなかった自分と比較してのもの，生活面では，一般入試による入学生も含めた全ての新入生と比較してのものである。1)は入学前セミナー当日でのねらいであり，2) はその後の1月～3月でのねらいとなる。また，後述のように，本学の入学前指導・教育は12月下旬から3月下旬までの3カ月にわたって学生が入学予定者と積極的に関わっていくことも大きな特徴である。

### 2.2 手続きと概要

入学予定者は入学手続きと同時に,「入学前セミナー参加申込」,「英語入学前指導としてのｅラーニング（「中級英語」「英単語」）受講承諾書」,「行動傾向検査受検およびｅラーニング（ナレッジルーム）利用に関する承諾書」を提出するとともに，行動傾向検査を受検した。これらについて，いずれかの対応がなされなかった入学予定者については，高校の教員に協力を依頼し高校側からも指導していただいた。また，入学前セミナー当日までに，行動傾向検査にかかわるテキストを読むことも課した。上記にかかる費用は、入学前セミナーの宿泊費と食事代を除いて大学が負担した。

入学前セミナーには，毎年入学予定者の95%近くが参加しており，平成27年度は155名の対象者のうち153名（98.7%）が参加した。実施したプログラムは以下のとおりである。

【平成27年12月23日（水・祝）】

- 開会集会（学長挨拶，オリエンテーション，英語学習ｅラーニングの進め方の説明，学生スタッフの紹介）
- 本学学生39名によるセミナー活動（3時間20分）
- 分散会

【平成27年12月24日（木）】

- 自己理解セミナー（行動傾向検査の結果レポートの読み方と活用について）（1時間30分）
- 学部訪問（1時間）
- 本学学生によるセミナー活動（1日目の続き）（2時間25分）
- アンケート記入
- 閉会集会（学生リーダーの挨拶，教育・学生支援機構 入学センター長による講評）

### 2.3 学生スタッフの選抜

入学前セミナーは，本学の学生が主体となってセミナーを運営することにより，直接本学の魅力を入学予定者に伝えていることが大きな特徴である。入学前セミナーに参加する学生は，本学の「キャンパス・ゼミナール・ネットワーク」に登録している学生で構成する。「キャンパス・ゼミナール・ネットワーク」は，入学センターが所掌する事業に協力をする大学教育活動協力団体である。入学センターが主催する事業ごとに「キャンパス・ゼミナール・ネットワーク」の学生にリーダーを公募する。リーダーを決定した上で，入学センター教員と学生リーダーが相談の上，学生スタッフを決定する。今年度は，男子学生23名，女子学生16名，合計39名が参加した。参加した学生の学年構成は，1年生14名，2年生13名，3年生11名，4年生1名であり，学部構成は，法文学部4名，教育学部11名，総合理工学部14名，生物資源科学部10名であった。性別・学年・学部の異なる多様な学生が，アイディアを出し合った。特に，参加する学生の中心メンバーは，入学前セミナーの意義をふまえ，上述の目的が達成できるように10月から何回も会議を重ね,直前には模擬演習を行うなどの準備をした。

この入学前セミナーに携わる多くの学生は，かつて自分自身が入学前セミナーの対象者でもあった。その時の経験を生かし，自分の思いを後輩にも伝えようという彼らの活動は，後述するとおり，本学の入学前セミナーにおいて重要な役割を担い，相応な成果を上げている。入学前セミナーに携わる学生について，長い学生は半年近くその準備と実施にかかわることになる。自分自身が入学予定者としての参加者であった時から，学生としてさらなる経験を積み重ねて現在に至っている。後輩に思いを繋ぐことは，他者とのコミュニケーション能力を向上することに繋がる。この意味で本学の入学前セミナーの取組は，入学予定者だけではなく，かつての参加者で

あった本学の学生にとっても有意義なものと考えている。

### 2.4 本学学生を加えた日中のセミナー活動

セミナー活動は,入学予定者を1班5〜6人に分けて各班ごとに，そして，一つの教室に数班ずつ分かれて行った。班編成は，入学予定学部・学科，出身県，性別が異なるメンバーとなるように配慮しながら入学センター教員が行った。各班には本学学生が加わり，各教室での進行は学生がリードする形で行った。このセミナー活動では，班によるグループディスカッションを通して,参加した入学予定者同士,参加した入学予定者と大学・学生を繋げていった。グループディスカッションでは，参加した入学予定者1人1人にしっかり考えさせること，考えたことを班で共有することに注意を払い，学生はセミナー活動を進めた。合計5時間45分の学生によるセミナー活動では，まず，入学予定者の大学に対する期待と不安，大学入学後も継続したいと思っていることについて班で共有した。次に，学生が予め用意した「生活」「勉強」「アルバイト」などをテーマとした話を，入学予定者が選んで聞くことにより，大学に対する期待を高め，不安を解消できるようにした。この学生の話を聞いた後，入学予定者が各自で聞いた話を班に持ち帰り共有する時間をとった。情報収集と班での共有を繰り返すことによって，今年度は各自，各班の「理想の大学生」についてまとめ，各教室で，プレゼンテーションを行った。

### 2.5 宿泊施設での分散会

宿泊施設に着いてからの時間は，参加した入学予定者の緊張を解きほぐすことに当てた。入学後に，同じ分野を学ぶ人と早めに打ち解けてもらうために,宿泊施設での班編成は，日中のセミナー活動とは異なり，同性，同学部・学科となるように編成した。朝から知らない人同士で過ごした入学予定のセミナー参加者に，リフレッシュしてもらうために，学生が中心となり，分散会を企画している。今年度の分散会では，スポーツコース，お話コース，レクコースの3つのコースを準備し，入学予定のセミナー参加者にアンケートで希望をとり，それぞれが自分の興味によって選択したコースでリフレッシュを図った。分散会後，参加した入学予定者は入浴・就寝となるが，学生は入浴後全員が集まって，セミナー活動の進行状況，参加者の様子等を報告しあい，情報の共有化を図ると共に，2日目の活動予定について確認・調整を行った。

### 2.6 自己理解セミナー

入学予定者が事前に受検した行動傾向検査は，他者との人間関係を円滑に構築する力を測るものである。検査結果は数値化され，業者から受検者個々にレポート形式で返却されている。業者は入学予定者に対して，検査結果の読みとり方の講義を行った。この時に使用するテキストは，上述のように，事前に読んでおくことを課している。本学のねらいは，入学予定者に自分の強みと弱みの両方に目を向けさせ，他者と上手く付き合っていくために入学までの間にできることを考えさせ，入学前セミナー終了後も,学生と入学予定者が意見交換をすることにより，2）の目的を達成することである。

## 3 入学前セミナーでのアンケート結果

学生によるセミナー活動の最後に，入学予定者に対してアンケート調査を行った。アンケートには，学校行事の関係で1日目だけ参加した2名と，体調不良の1名を除く150名が回答し，150名全員分を回収した。以下はアンケートの質問とその結果の集計である。

【問い】以下のことはどの程度当てはまりますか。
次の5段階で答えてください。

| |
|---|
| 5：よくあてはまる |
| 4：まあまああてはまる |
| 3：どちらでもない |
| 2：あまりあてはまらない |
| 1：まったくあてはまらない |

1. 入学後の学習のことがよくわかった
2. 入学後の学習の不安がなくなった
3. 入学後の生活の不安がなくなった
4. 大学生活に期待がもてるようになった
5. 大学生活への意欲がわいた
6. 大学時代にやってみたいことができた
7. 親しく話す知人ができた
8. 頼りになる先輩を見つけることができた

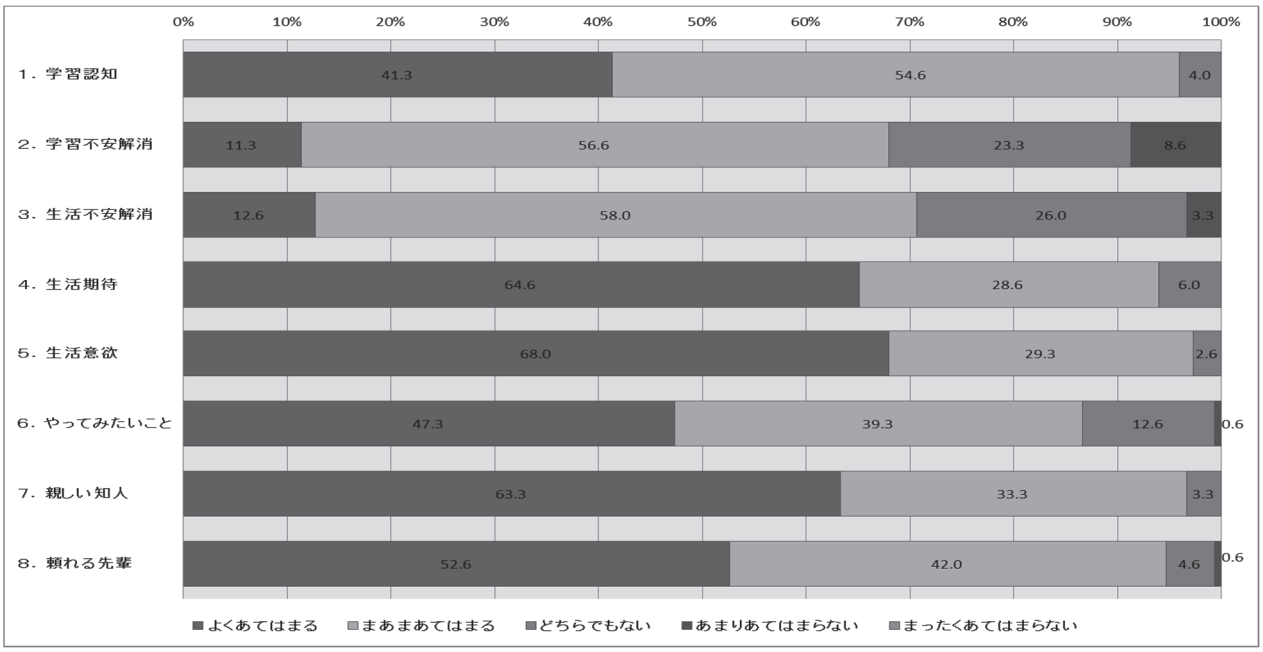


図１　入学前セミナー参加後の気持ちの変化　単位：％

アンケート結果から，この入学前セミナーを実施したことにより，参加した入学予定者は大学生活へ意欲がわき，期待が持てるようになったことが伺え，1）の①～④の目標が概ね達成できていると判断した。

以下の２つの問いは，入学前セミナーにかかわった学生の目標達成を計るものである。

【問い】この２日間のセミナーの期間中に，何人の高校生と話をしましたか。あてはまる人数の番号に〇をつけてください。

1．5 人以内
2．6 人～10 人
3．11 人～15 人
4．15 人より多い

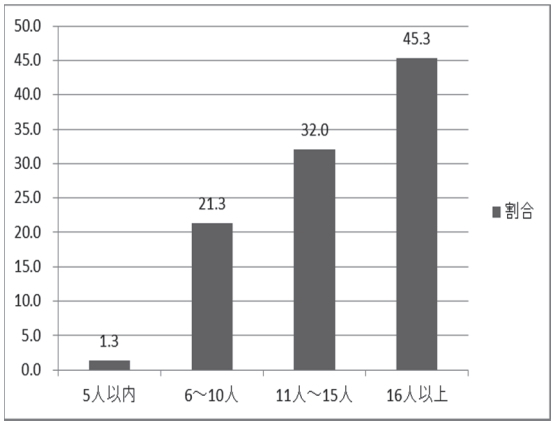


図２　入学前セミナーで話した高校生の人数　単位：％

アンケート結果から，参加した入学予定者の 45.3%が 16 人以上の高校生と話をしている。セミナー班が１班につき 5～6 人，宿泊班が１班につき 4～10 人で構成されていることから，約半数の入学予定者は自分が所属した班以外の入学予定者と会話をしていた。

【問い】この２日間のセミナーの期間中に，何人の大学生と話をしましたか。あてはまる人数の番号に〇をつけてください。

1．5 人以内
2．6 人～10 人
3．11 人～15 人
4．15 人より多い

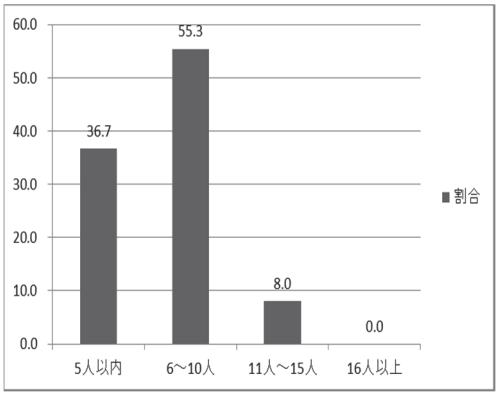


図３　入学前セミナーで話した大学生の人数　単位：％

１つの教室には 4～5 班が入っていたことを考えると，アンケート結果から，参加した入学予定者の半数は自分の教室以外の学生とも話をしたことがわかった。

【問い】グループでの話し合いに，あなた自身はどうかかかわりましたか。はい，まあまあ，いいえのうち、あてはまるものに〇をつけてください。

1. 自分の意見や考え・思いを積極的に話すことができた

2. ほかの人の意見や考え・思いをよく聞くことができた
3. グループの話し合いをうまくまとめることができた
4. いろいろなアイディアを出すことができた
5. 作業に積極的に取り組むことができた

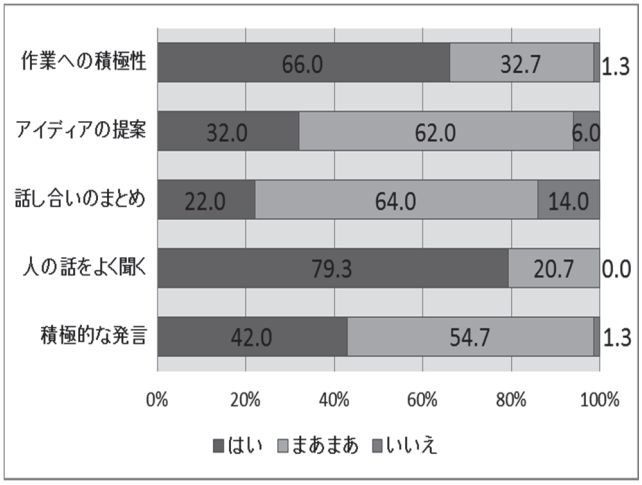


図4 グループでの話し合いへの関わり方　単位：%

今年度参加した入学予定者は，全体的におとなしい印象を受けた。それは，アンケートの「グループの話し合いをうまくまとめることができた」，「いろいろなアイディアを出すことができた」の結果にも示されている。しかし，それと同時に参加した入学予定者は，「作業に積極的に取り組むことができた」の結果から，班活動が円滑に進むように活動し，「ほかの人の意見や考え・思いをよく聞くことができた」の結果から，お互いを理解しようと行動したことが見て取れた。

【問い】これから入学までの高校生活を考えるときに以下のことはどのくらい積極的にやってみようと思いますか。「今まで」と「これから」について，次の5段階で答えてください。

5：おおいに積極的にやる（やってきた）
4：まあまあ積極的にやる（やってきた）
3：少し積極的にやる（やってきた）
2：あまり積極的にやらない（やってこなかった）
1：まったく積極的にやらない（やってこなかった）

1. 性格や志向を考える
2. つきたい職業を考える
3. 生き方（将来の自分像）を考える
4. 夢をもつ
5. 生活のリズムやスタイルを変える
6. 学校の役に立つことをする
7. 好きと思える科目・教科を作る
8. 打ち込んでみたいことを作る
9. 学校の勉強に取り組む
10. いろいろな人と話し合う
11. 趣味に没頭する
12. 免許や資格を取る
13. 大学の専門につながる勉強をする

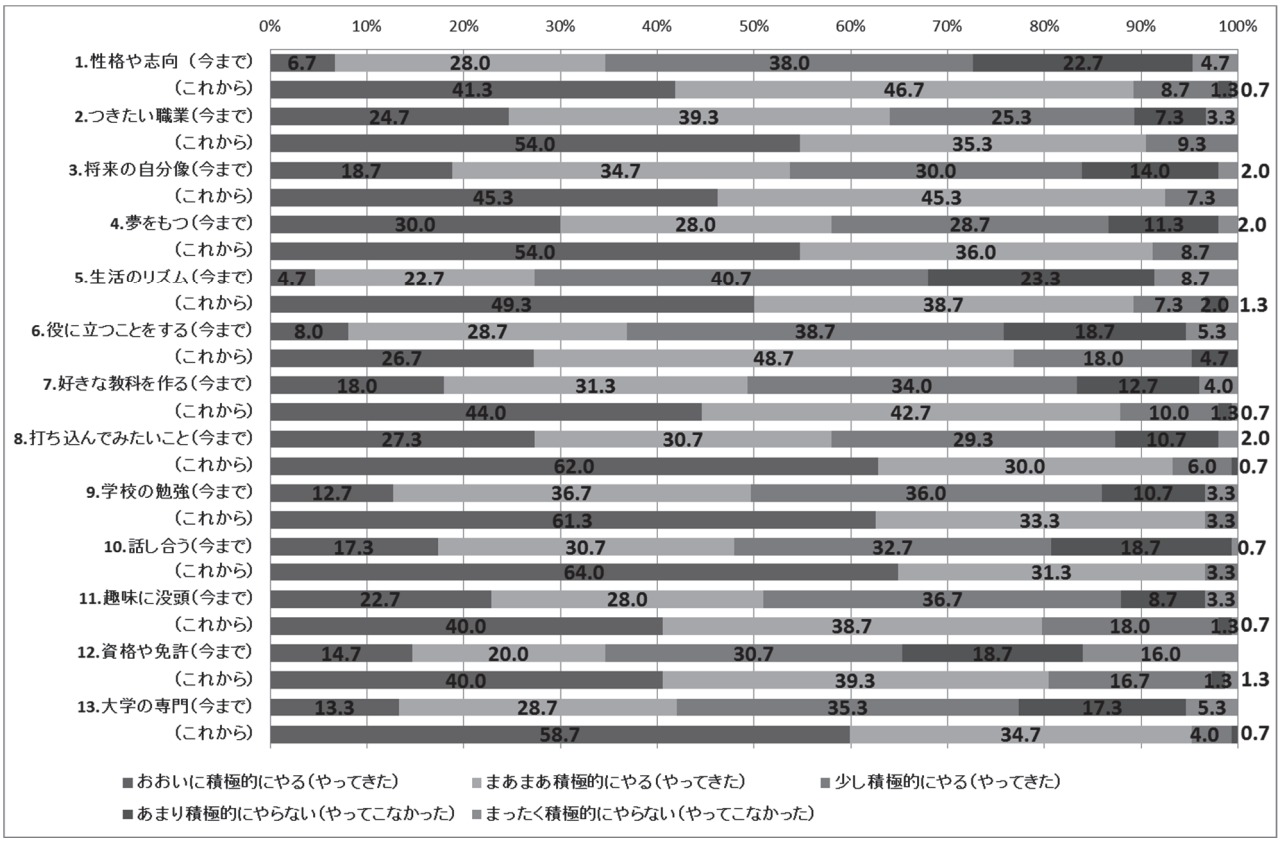


図5 これまでの生活と入学前セミナー後の生活　単位：%

アンケート結果から参加した入学予定者は，全ての質問について，入学前セミナー後は積極的な方向に反応していた。特に，これからおおいに積極的にやってみようと思ったこととして,「生活のリズムやスタイルを変える」(44.6%増),「学校の勉強に取り組む」(48.6%増),「いろいろな人と話し合う」(46.7%増),「大学の専門につながる勉強をする」(45.4%増) が挙げられる。また,「生き方 (将来の自分像) を考える」,「夢をもつ」,「打ち込んでみたいことを作る」,「学校の勉強に取り組む」,「いろいろな人と話し合う」,「大学の専門につながる勉強をする」に対して，おおいに積極的にやってみようと思ったことと，まあまあ積極的にやってみようと思ったことの合計が90%を超えた結果からも，1) の目標は達成できたと考える。

## 4 入学前セミナー後

今まで述べてきたように，入学前セミナーを実施することにより，入学予定者の大学生活に対するモチベーションを上げることができたと考えている。しかし，これを維持していくことは難しい。本学では，平成25年度から，業者との共同開発で，入学前セミナーが終わってから大学に入学するまでの期間,ネット上で，入学前セミナーの対象者と入学前セミナーに参加した本学学生が交流するシステムを運用している。入学予定者が，2) の目標を達成するために，入学まで「いろいろな人と話し合う」ことを続けてもらおうとする試みで,年度末まで利用できる。行動傾向検査の結果を他者との比較において自己分析し，それを意識して日常生活を送ってもらえるように，行動傾向検査結果のコミュニケーションタイプについて，webシステムで他の人のコミュニケーションパターンが確認できるようになっている。また，入学予定者が，コミュニケーション能力を高めるために，webシステムを活用しやすくするためのアイディアを学生が提供するなどの工夫を行っている。本システムをできるだけ多くの入学予定者に利用してもらえるように，今年度は，本セミナーに対する学生の事前模擬演習の時に，学生からのメッセージをあらかじめシステムに入力し，入学予定者の参加を出迎える形になるように工夫した。12月以降毎月，月末に1度，学生からの話題の投げかけ，月の半ばに，英語eラーニングの進捗状況についての問いかけをするなど,話題が複数になるようにした。その結果，年度末までに187件の記事，143件のコメント,5,362件の閲覧があった。入学予定者の80%以上が閲覧をしていた。

英語eラーニングについては，業者と外国語教育センター，入学センター教員が連携して，直接本人に，時には高校の教員を通じて，学習を促した。

## 5 今後の課題と展望

本学入学センターは，入学までの時間を大学や学生と入学予定者を繋ぐ試みでとして入学前セミナーを実施してきた。しかし，セミナー活動での議論があまり活発でなかった班は，webシステムの活用状況がよくない等，入学前セミナー終了後から入学までの期間の入学予定者の様々な取組は十分とは言えず，課題を残したままである。

入学前セミナーを実施することは，入学予定者の成長だけにとどまらず，入学前セミナーに携わった本学学生の能動的主体性の涵養に役立つものと考えている。より多くの入学予定者にモチベーションを維持させるなど，入学前セミナー終了後からの課題を解決していくための取組をこれからも検討していかなければならない。入学センターのこれまでの取組の蓄積を活用することと，学生のアイディアとを組み合わせることで，課題の改善に臨みたい。

## 6 謝辞

本稿の作成にあたっては，本学副学長（教育・学生支援担当）荒瀬　榮理事にアドバイスをいただきました。感謝申し上げます。

## 参考文献

田中　均（2012）.「入学前指導・教育の構想――高大接続の観点から――」『平成24年度　全国大学入学者選抜研究連絡協議会　大会（第7回）　研究発表予稿集』，1-6

文部科学省　高大接続システム改革会議（第5回）配付資料　参考資料2　大学入学者選抜等について
2015年8月7日
<http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/033/shiryo/__icsFiles/afieldfile/2015/08/07/1360786_09.pdf>（2016年2月20日）

株式会社ベネッセコーポレーション　大学生が振り返る大学受験調査
2012年11月26日
<http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/daigaku_jyuken/2012/pdf/data_01.pdf>
（2016年2月20日）